

-第 59 回日本平滑筋学会総会「若手の会シンポジウム」を終えて-

今回で 5 回目となる「若手の会シンポジウム」は、鹿児島大学・加治屋勝子と東京大学・梶典幸がオーガナイズしました。今回のシンポジウムは、テーマを「平滑筋と横紋筋：お互いの研究に活かす」と掲げ、現在ご活躍中の 4 名の演者に発表して頂きました。骨格筋研究として、古市泰郎先生(首都大学東京)には「骨格筋研究の新たなパラダイム：筋量維持がもたらす多様な健康効果」、椎名貴彦先生(岐阜大学)には「食道“骨格筋”の機能的特徴～「ちぢむ(収縮)」仕組みと「ゆるむ(弛緩)」仕組み」、一方、平滑筋研究として、長尾宗紀先生(東北大学病院)には「腸管平滑筋運動研究の過去・現在・未来－異分野との融合統合研究を目指して－」、白石光也先生(鹿児島大学)には「メチル水銀の毒性発現機構：血管収縮機能への影響とそのシグナル伝達機構」といった内容

のご発表をして頂きました。骨格筋と平滑筋の相違点と同意点を考える良い機会となったこのシンポジウムを経て、今後、お互いの研究に活かすことができるようになれば幸いです。恒例のアンケート結果(45名)では、22%の方が非常に満足、残り 71%の方も満足といった評価



を頂きました。positive なご意見として、「これまでの若手の会のシンポジウムの中で一番良かった」、「シンポジウムのテーマが若手しか考えつかない興味を引くものだった」、「骨格筋と平滑筋の 2 つの筋組織を対象としたことが良かった」といったうれしいご評価を頂きました。逆に negative なご意見として、「今回はスイーツがなかったのでとても残念!!」、「若手の方が質問しやすい工夫が必要」といった意見を頂きました。その他、若手の会のシンポジウムの開催時間をもっと多くの方が参加しやすい時間帯にしてはどうか、「本会を盛り上げてくれるような若手をリクルートして欲しい」といった貴重なご意見を頂きました。このシンポジウムを契機に、新たに 5 名の方が平滑筋学会若手の会に入会を希望して頂きましたことは大変うれしい限りです。このようなシンポジウムを開催する機会を与えてくださいました理事長の羽生信義先生、年会会長の井上隆司先生に、この場をお借りして深謝致します。

(文責 九州大学・伊原栄吉)